

1 気象概況（8月前半：果樹研究所）
 8月前半の平均気温は、1半旬が29.2℃、2半旬が26.8℃で、各々平年より3.3℃、1.1℃高く、3半旬が23.7℃で、平年より1.8℃低く、この期間の降水量は18.5mmで平年の26%でした。

2 土壌の水分状況（8月15日現在）
 果樹研究所における土壌水分（pF値：無かん水・草生栽培なしほ場）は、深さ20cmが2.8、40cmと60cmがともに2.9で、かなり乾燥状態となっています。

3 生育状況（果樹研究所）

(1) もも

ア 果実肥大（8月15日現在 暦日比較）

「ゆうぞら」の縦径は75.8mmで平年比117%、側径が81.2mmで平年比119%と平年より大きい状況です。

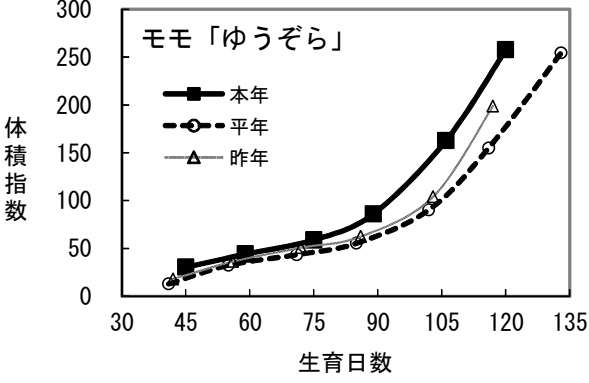


図1 ももの果実肥大（満開後日数比較）

イ 「中生種」の収穫期と果実品質

「まどか」の収穫盛りは、8月6日で平年より7日早く、果実の大きさは357gと平年より大きく、糖度は14.3%と平年より高い状況でした。

(2) なし

ア 果実肥大（8月15日現在 暦日比較）

「幸水」の縦径は68.4mmで平年比108%、横径が85.4mmで平年比109%、「豊水」の縦径は69.4mmで平年比109%、横径が78.8mmで平年比109%と各々平年より大きい状況です。

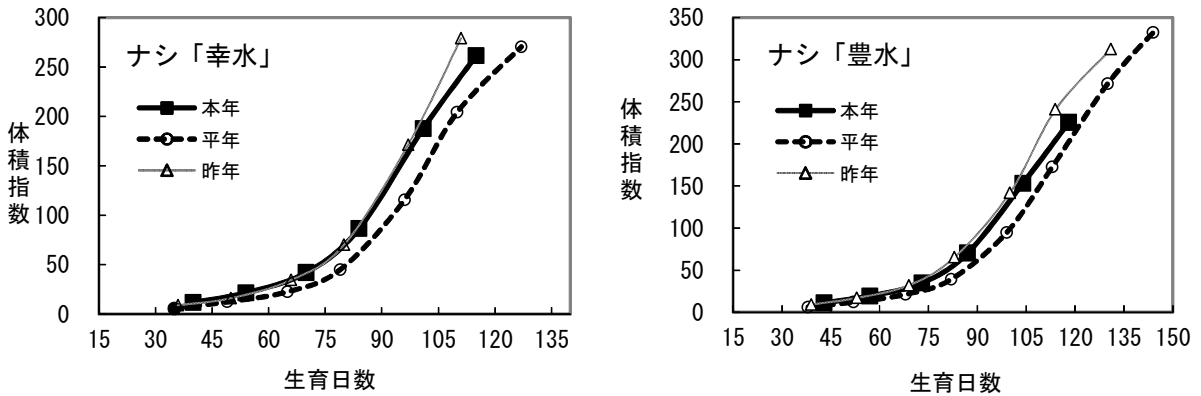


図2 なしの果実肥大（満開後日数比較）

イ 「幸水」の成熟経過

満開後114日（8月14日）の果実の成熟は、果皮中のクロロフィル含量は $11.4\mu\text{g}/\text{cm}^2$ とほぼ平年並となっていますが、果実硬度は7.4ポンド、糖度は11.0%と平年を下回っています。

なお、果皮中のクロロフィル含量の低下に対する果実硬度の低下の状況は小さく、現時点では果肉先熟の傾向ではありません。

(3) りんご

ア 果実肥大（8月15日現在 暦日比較）

「つがる」の縦径は71.1mmで平年比100%、横径が80.9mmで平年比100%、「ふじ」の縦径は65.1mmで平年比100%、横径が73.6mmで平年比103%と各々ほぼ平年並の状況です。

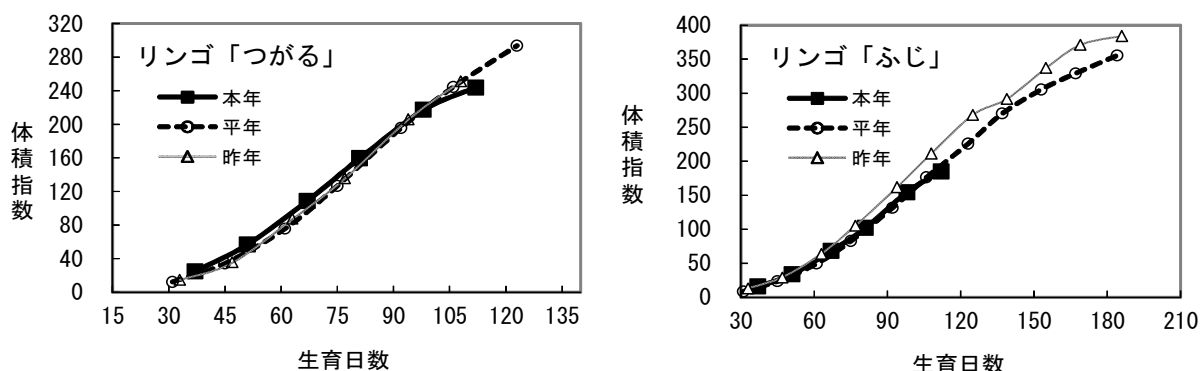


図3 りんごの果実肥大（満開後日数比較）

イ 果実の成熟経過

満開後114日（8月17日）における「つがる」の果実品質は、硬度が13.6ポンド、デンプン指数は3.0、糖度は13.7%、リンゴ酸は0.25%でした。デンプンの消失は平年並、果肉硬度は平年よりやや低めに経過しております。

(4) ぶどう

ア 「あづましずく」の収穫期と果実品質

長梢栽培の収穫始めは7月31日、収穫盛りが8月6日で、平年より13日早い状況でした。

イ 「巨峰」（無核栽培）の成熟経過

満開後70日（8月6日）現在の成熟状況は、糖度が17.8%、果皮色が9.0、酒石酸含量が0.6%、糖酸比が30.1となっています。糖度の上昇と酒石酸の低下は平年より早く、果皮色のカラーチャート指数も高く、成熟はかなり進んでいる状況です。

東北地方1か月予報(仙台管区气象台 平成27年8月13日発表)

今後の気温の経過は、1週目（8月15日～8月21日）及び2週目（8月22～8月28日）は、高い確率が各々50%と60%、3～4週目（8月29日～9月11日）も高い確率が50%となっています。

※ 気象庁では「天気予報」以外にも下記の情報も発表しておりますので、これらも参考にして管理作業や防霜対策を進めましょう。

○ 季節予報

1か月間や3か月間といった期間全体の大まかな天候を3つの階級で予報しています。

URL: <http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/>

4 栽培上の留意点

(1) も も

ア 晩生種の収穫前管理と収穫

「あかつき」等の中生種では、収穫期が平年より早く経過し、収穫遅れによる等階級の低下や核割れ等による軟質果の発生がみられました。

晩生種においても、同様の傾向となることが予想されますので、果実の成熟状況には十分注意し、適期収穫に努めましょう。

また、夏季せん定、支柱立てや枝吊り、反射シートの設置等収穫前の管理を計画的に実施しましょう。

(2) な し

ア 「幸水」の収穫

収穫基準は、「幸水」用の表面色カラーチャートの1.5～2を目安とし、適期収穫に努めましょう。また、収穫時の果実温が高いと果肉軟化を促進し、芯腐れ果の発生につながりやすいので、収穫は早朝の気温の低い時間帯に実施し、収穫後は涼しい場所に保管するよう心掛けましょう。

なお、「幸水」の品種特性として、収穫盛期以降に降雨等により急激に土壌水分が増加した場合、果皮クロフィルや果肉硬度の低下が急激に進みますので、収穫の遅れには十分注意しましょう。

イ 「豊水」の修正摘果

「豊水」では、満開後120日頃を目安に修正摘果を実施しましょう。着果過多は休眠期の紫変色枝枯症の発生を助長しますので、着果量は「幸水」並とし、適正着果に努めましょう。

(3) りんご

ア 早生種の収穫前管理と収穫

「つがる」や「さんさ」では果面の30%程度が着色した頃から葉摘みを実施します。

なお、本年は気温の高い時期に収穫期を迎え、日焼け果の発生が懸念されることから、葉摘みに当たっては、日焼け果の発生状態を確認しながら徐々に行いましょう。

(4) ぶどう

ア 収穫適期の把握

収穫時期は品種、地域、樹勢、房型や着房量によって異なりますので、果皮色や食味（特に糖酸比）、香り等を総合的に判断し、適期収穫を心掛けましょう。

イ 収穫方法

収穫はなるべく果実温度の低い早朝に行いましょう。また、収穫や調整の際に果房を直接手で持つと果粉が落ちて商品性が低下するため、穂軸を持って扱うように心掛けましょう。

5 病虫害防除上の留意点

(1) 病 害

ア モモ灰星病

降雨により灰星病の感染が助長されるため、収穫まで本病の薬剤防除を徹底しましょう。

なお、除袋後の防除間隔が空きすぎないように注意しましょう。

イ リンゴ褐斑病、炭疽病

今後、褐斑病及び炭疽病の感染、発病が増加する時期となりますので、薬剤防除を徹底しましょう。

(2) 虫 害

ア モモハモグリガ

第6世代の防除適期は8月6半旬頃と推定されます。本年は、平年と比較し各世代の発生時期が早まっていると考えられることから、本種が多発している園では、収穫後の防除も徹底しましょう。

イ モモノゴマダラノメイガ

中生種のモモで被害が見られた園では、晩生種に対する防除も実施しましょう。なお、本種はクリやカキなども加害するため、近隣にこれらの樹がある場合は、同時に防除を行いましょう。

ウ ナシヒメシンクイ

第4世代の防除適期は、8月4半旬頃と推定されます。本種は第3世代以降は、なし果実への寄生が増加し、中生種以降のももでも果実被害が発生する場合があります。例年、なしやももで果実被害が多い場合は、必ず薬剤防除を実施しましょう。

エ カイガラムシ類

ウメシロカイガラムシ第2世代幼虫の防除適期は8月中旬頃、クワコナカイガラムシ第2世代幼虫の防除適期は9月中～下旬頃になると推定されます。カメムシ類の対策等で合成ピレスロイド剤やネオニコチノイド剤等を使用している園では、天敵類の減少による本種の増加に注意しましょう。

オ ハダニ類

高温が続く場合はハダニ類の急増に注意し、要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭）の密度になったら速やかに防除を行いましょ。

表1 主要鱗翅目害虫の防除時期の推定（果樹研究所 平成27年8月16日現在）

今後の 気温予測	モモハモグリガ		ナシヒメシンクイ	
	第5世代 成虫盛期	第6世代 防除適期	第3世代 成虫盛期	第4世代 防除適期
2℃高い	8月23日	8月26日	8月10日	8月17日
平年並	8月23日	8月27日	8月10日	8月17日
2℃低い	8月24日	8月29日	8月10日	8月17日

注) 演算方法は三角法による。

起算日：モモハモグリガ 8月3日、ナシヒメシンクイ 7月17日

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょ。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7339
(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL：http://wwwcms.pref.fukushima.jp/pcp_portal/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=1000004&CONTENTS_ID=22752#gi_jyutsu_jyohou

ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧ください。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>